

01

川西市地域分権推進事業 ニュースレター

第1回地域夢・未来カフェ in 桜が丘

地域分権制度の検討の一環として、地域課題の解決に向けた具体的な活動案を考えながら、地域分権制度についての意見をいただくため「第1回地域夢・未来カフェ in 桜が丘」が開催されました。

日時：2012年11月8日（木）14:30～16:30

場所：川西市役所 202 会議室

参加人数：市民 16 名＋市 WG メンバー 3 名

当日のスケジュール

- 14:30 開会、あいさつ（総合政策部長）
- 14:35 地域分権制度の全体概要について
- 15:10 フォーラム及びテーブルワークの概要について
- 15:25 イントロ（川西クイズ）
- 15:30 テーブルワーク①『地域の課題について』
- 16:00 テーブルワーク②『実現に向けた取組について』
- 16:30 閉会

あいさつ・地域分権制度の全体概要について

総合政策部の本荘部長より、開会のあいさつの後、地域分権制度の構築に向けての説明がありました。地域分権が推進される社会的背景や必要性、制度の概要とともに、今年度策定される第5次川西市総合計画における地域別構想の位置づけについても触れられました。

また、これから3回にわたり開催される地域夢・未来カフェの目的や昨年度実施された地域別懇談会との関係などについても説明がありました。



地域分権制度とは

市の持続的な発展を図っていくためには、行政の力だけでは限界があります。そこで、これまで行政が主導して担ってきた地域の課題に対し、地域住民自らがその解決にあたるために、一定の権限や財源を地域へ移譲する制度です。

フォーラム及びテーブルワークの概要について

キックオフイベントとして9月15日に開催された「かわにし夢・未来フォーラム」の報告がありました。地縁型組織とNPOやボランティアなどのテーマ型組織の連携の必要性、面識社会の回復の重要性、市職員の果たすべき役割などについての意見交換が行われたとの説明がありました。

次に、カフェでのテーブルワークの方法についての説明がありました。まず、昨年度実施された懇談会の結果をふりかえり、「地域の課題」や「地域のありたい姿を実現するための取組」の内容を共有しました。その上で、2種類の色のシールを使って投票しながら、特に重要な課題や取組をみんなで議論し、検討していくという流れの説明がありました。

テーブルワークに入る直前には、イントロダクションとして、日本全体や川西市の状況についてのクイズが出題されました。



テーブルワーク

後半は、まず 3 つのグループに分かれてテーブルワークを行い、さまざまな意見を出した後に、全体で特に重要な課題と取組を投票しました。地域のつながりについては、課題と取組両方で重要度が高くなっており、環境整備については課題で、見守り合いや助け合いは取組でそれぞれ高くなっています。



◆地域の課題について（重要だと思う課題を 1 人 3 点選ぶ）

地域の課題	点数	地域の課題	点数
地域のつながりの形成	14	高齢者が住みやすい環境づくり	9
地域活動の活発化	4	安心して暮らすための整備	4
活動団体の担い手や役割	10	様々な環境整備	16

◆地域のありたい姿を実現するための取組について（重要だと思う取組を 1 人 5 点選ぶ） ※0 点の項目は削除

実現に向けた取組	点数	実現に向けた取組	点数
●みんなが顔見知りで、つながっているまち <38>			
祭などの行事(文化祭、体育祭)などで、皆が顔見知りになる	4	子どもからお年寄りまで参加自由の自治会サポータークラブづくり	1
自治会活動が活発になれば、みんなで仲良く話ができる	6	自治会のないところに、自治会をつくる	5
みんなでわいわいできる雰囲気づくり、サークル活動	1	自分から挨拶をする(朝の通勤、通学時には特に)	1
各世代が集まって話す(PTA との連携)	1	自治会であいさつ運動をする	1
子どもと地域の大人との交流会で、顔見知りになるように	2	自治会未加入者への加入の働きかけ	1
ふれあいサロンの実施	2	自治会館の共同利用の検討(会館が多すぎる)	2
日頃から協力的な人に参加を呼びかける	2	市の管轄部門の再編検討(民生、自治会、福祉三者一体)	7
若い人に負担の少ない自治会の役割分担	2		
●高齢者が他の世代とのつながりの中で安心して暮らせるまち <8>			
自治会で声掛け見回り活動をする	2	スポーツ 21 の健康体操を地域で行う(3 月に 1 回)	1
健康で居られるように様々な努力(歩く、運動)をする	3	認知症について、啓蒙サポーターを養成	1
地域包括支援センターと連携(連絡)する	1		
●マナーがよく、気持ちの良い暮らし <8>			
ゴミが落ちていたら拾う	3	ゴミ置き場を美しくする(近隣で協力)	1
信号があるところで、信号を守るように注意する	1	身近な所の清掃をする	2
犬のフンを持ち帰らない人がいたら声を掛ける	1		
●資源があり住みやすいまち <5>			
IT(パソコン)活用	1	後につなげる人を育成する	4
●見守り合い助け合えるまち <26>			
宅配してくれる商店を開拓する	2	防災訓練の実施	2
防犯灯をつける	2	地域のボランティアを増やす	2
普段見かけない人をみたときには声を掛ける	3	団地内で声を掛ける	1
防犯パトロール	4	ボランティアの有償化(ビジネス型NPO法人)	7
身近な所で、会館を活用してふれあいサロンを開催する	3		
●その他 <10>			
地域のPRの充実	2	子どもの時からのしつけをしておく	5
地域活性化の一つとして買い物は地元でする	2	個人の体験をネットで発信	1

●追加された主な意見

- ・民生委員が誰かわからない ・自治会と民生委員の区割りがバラバラ ・役員の自宅が事務所化している ・個人情報保護法が邪魔して情報が出ない
- ・福祉委員会の拠点がない ・自治会役員の任期が短くて活動が続かない ・地域で顔合わせする機会が少ない ・老人会の会員数が少ない
- ・体育祭や文化祭、盆踊りなどは自治会やスポーツクラブ 21 などが協力して実施する ・団塊世代などを活用するための地域の人材リスト など